

# 令和2年度 自己評価結果公表シート

豊中みどり幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- 心身ともに、たくましく元気な子どもに
- 思いやりのある、あたたかい心の子どもに
- よく考え、判断し、行動できる子どもに
- 幅広い経験に意欲を持って取り組み、やり抜く子どもに
- 自分の感じたことを豊かに表現できる子どもに

## 2. 2年度重点的に取り組む目標や計画

職員間でコミュニケーションをはかり、子どもの主体性を育む自園の保育や子どもの姿を見る目を養うとともに、保護者へも発信していく。

### ① プロジェクトを通して、保育の質向上

保育者がチームを組み、食育・運動遊びの分野において、子どもの育ちや課題を見出していく。

- a. 食育活動から見る子どもの経験と育ち
- b. 戸外遊びからみる子どもの経験と育ち

### ② 子どもの育ちの共有

子ども達の姿(興味関心、関わり、気づきなど)や成長を、子ども・職員間・保護者に可視化して伝え、共有し、保育の質の向上を目指す。

### ③ 園行事の見直し

コロナで3密を避けるという意味において、園行事を見直ししていく必要がある。従来通りとしてという見方ではなく、子どもを中心として、本当に必要なことは何かを職員全員と模索しながら持続可能な行事という視点からも見直しをしていく。

## 3. 評価項目及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
① プロジェクトを通して、保育の質向上 a. 食育活動から見る子どもの経験と育ち	園の保育の特徴の柱でもある“食育”を見なおした。コロナ禍の中、どのように食育を進めていくかをチームで話し合った。農園活動やコーナー遊び、食べる姿勢や噛むことなど、子ども達とかがかわる中で、課題に感じる事を保育の中で取り組み、こどもの経験と育ちを考察した。

<p>b. 戸外遊びから見る子どもの経験と育ち</p>	<p>2020 年度、表園庭の総合遊具を一新した。それにより、園庭(遊具)での安全面や子どもの運動面の経験について等を話し合った。また、子ども達の現在の体力を把握し、向上に向けてチーム間で話し合いながら取り組み、環境構成や保育を考え、実施していった。</p> <p>同じテーマで取り組んでいても、こどもの育ちや新たな視点での気づきや発見がみられた。他のチームとも共有することで、自分の保育に活かせられることにつながり、保育や子ども理解の視野が広がっていった。</p> <p>まだまだ課題もたくさん見えたので、次年度にも引き続いてプロジェクトのテーマにあげ、取り組むことにした。</p>
<p>② 子どもの育ちの共有 子ども達の姿(興味関心、関わり、気づきなど)や成長を、子ども・職員間・保護者に可視化して伝え、共有し、保育の質の向上を目指す。</p>	<p>日々の保育から子どもの姿や遊びの様子などを写真に撮り、掲示したり、ドキュメンテーションを作って子ども達にも見えるようにファイルしたりした。それを見て刺激をうけて、自分もやってみたり、遊びを展開していったりする姿が見られた。また、保護者にも、ドキュメンテーションや動画を見てもらう機会をつくり、子どもの育ちを共有できるようにした。</p> <p>職員間でも、各自が作成したドキュメンテーションを持ち寄り、園内研修を実施した。作成の視点や、子どもの育ちを多面的に捉えられたり、共有したりすることができた。</p>
<p>③ 園行事の見直し</p>	<p>コロナで 3 密を避けるという意味において、園行事(保護者を伴う行事)を見直していった。子どもを中心として、本当に必要なことは何か などを職員全員と模索しながら持続可能な行事という視点からも検討し、実行していった。</p> <p>変更したことは保護者からは前向きに受け取っていただいた。また、配信も多用したことで、気軽に、たくさんの親戚に観てもらえる事ができたり、子どもと一緒に振り返ったり、何度も観られてよかったという感想も多く頂いた。</p>

#### 4. 2 年度の目標や計画の総合的な評価結果

コロナウィルス感染の影響で、本園に特色や社会的にも課題とされていることをテーマに置いて園内研修を進めていった。重点課題に置いたことで、保育者間でも意識して保育に取り入れる事ができた。職員間でその過程、成果と課題を共有することで、子ども理解や保育の幅が拡がり、次年度に向けての課題にも繋がった。

職員間で保育や子どもの育ちの振り返りの場を多く持つようにした。その場を通して子どもの姿や発達過程や園の教育方針等が共通理解出来てきたと思われる。写真を使ったドキュメンテーションを保育に用いることで、子どもが主体的な保育の展開に結びついたり、子どもの育ちに繋がった。また、保護者にもわかりやすく保育の可視化ができた。学年末にアンケートを実施したことで、子どもの姿や育ちの共有ができたことを実感した。

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
プロジェクトを通して、保育の質向上 a. 食育活動から見る子どもの経験と育ち b. 戸外遊びから見る子どもの経験と育ち	今年度の課題を生かして、広い視野で食育や戸外遊びをとらえて活動していく。チームで1年間のねらいや方向性を話し合い、見通しをもって活動できるようにする。また、各チームの活動の共有や子どもの学年を超えて発達や経験が繋がっていくことを意識して実施していく。 こどもの主体性を育むことに重心を置いて取り組んでいく。
子ども理解の共有	大私幼の29次プロジェクト研修会に参加して得た学びを生かし、子ども理解の共有を2つの方法で広げ、課題を見つけ、成果として実感する。
a. 保育の可視化を使って	子ども同士・職員間・保護者の中での子ども理解するために、ドキュメンテーションや動画・掲示物などを活用する。
b. 職員間での共有	会議や子どもの姿についての話し合いの機会を多く持ち、保育者の不安や悩みを解消するとともに、子ども理解を深めていく。

## 6. 学校関係者評価

- ・ドキュメンテーションや動画、配信など、保育が可視化されることで、園としての思いや取り組み、子どもの見方や成長などがよく理解出来る。
- ・来園して子どもの様子を見られない分、配信をたくさん取り入れたので子どもの様子よくわかった。園行事は少ない人数で実施したので、見やすかったが、実際の雰囲気や活動を体感できなかった分、少し寂しいところもあったと聞く。
- ・コロナの中、出来ない事より、できる事を考え、前向きに取り組んでいく姿が感じられた。